

## 情 報

### 新潟県連携教育学生セミナー参加報告

明倫短期大学歯科衛生士学科  
山田隆文  
明倫短期大学歯科技工士学科  
丸山 満

Experience of the Interprofessional Education Students  
Seminar in Niigata  
Takafumi Yamada  
Department of Dental Hygiene and Welfare, Meirin College  
Mituru Maruyama  
Department of Dental Technology, Meirin College

キーワード：連携教育

Keywords：Interprofessional Education

#### 1. 緒言

新潟県の人材確保・養成の短期的及び包括的施策による地域貢献（代表校新潟青陵大学）による、戦略的の大学連携支援事業、共生型大学連携の包括的施策の一事業である、共生型大学連携「連携教育」学生セミナーが、新潟大学有壬記念館に於いて開催された。県内の医療福祉系大学・短期大学の教員・学生が参加し、明倫短期大学からは教員3名（歯科技工士学科丸山満・歯科衛生士学科山田隆文・西山真紗美）と学生4名が参加、今後の医療福祉分野におけるチーム体制を築くための数多くの重要な知見を得た。

#### 2. 目的

医療・福祉の現場は、単に病気の治療やリハビリテーションをするだけでなく、患者さんを中心に精神・物理両面のクオリティ・オブ・ライフをいかに維持するかをサポートする時代である。

しかし、各職種がばらばらに行動しては、この目的を達成することは難しい。それぞれが患者情報を共有することで、始めて治療・ケア方針がおなじ目標に向かうことで、患者さんのニーズを満たすことが出来る。

今回は、医師、看護師・保健師、社会福祉士、介護福祉士、理学療法士、作業療法士、薬剤師、歯科技工士、歯科衛生士、管理栄養士などを目指す学生達が、チームアプローチのための専門職間教育（Interprofessional Education）トレーニングを行った。

#### 3. ワークショップの流れ

##### 1) 第1日目（8月18日）

- ① Helena Low女史講演  
英国CAIPE 副センター長  
(Center of Advanced  
Interprofessional Education)  
「世界における連携教育の動向」  
～WHOレポート～

- ② グループワーク

「事前の予習及び明日の実習への準備」

##### 2) 第2日目（8月19日）

病院・施設訪問

医療機関、福祉施設に出向き、紹介された事例について病室や家庭訪問により、実際の患者さんと対面することで情報収集した。

##### 3) 第3日目（8月20日）

- ① グループワーク

「グループ別に事後の事例検討」

- ② グループ発表、討論会

〈参加大学および施設〉

新潟大学（医学部・口腔生命福祉学科）・新潟青陵大学（社会福祉心理学科・看護学科）・新潟薬科大学・新潟医療福祉大学（社会福祉学部・健康科学部・医療技術学部）・明倫短期大学（歯科技工士学科・専攻科口腔保健衛生学）・日本歯科大学新潟短期大学・敬和学園大学（人文学部）から、それぞれの医療福祉の専門職を目指す学生57名と、教職員28名が参加。9か所の病院・施設、11名の患者さんの協力により実現した。

#### 4. 参加報告

##### ① 歯科技工士学科1年「伊藤美穂」

私は、医療を学んでいる学生たちの勉強会があるから参加してみないかと勧められたことをきっかけに参加しました。他の分野で学んでいる学生が、ふだんのような勉強をしているのかを知ることを目的として活動を進めていきました。

私たちのグループは、医師、社会福祉士、看護師、歯科衛生士、理学療法士、作業療法士と歯科技工士の私を含めた7人でした。私たちのグループが受け持った症例は歯科技工の分野に関連性が薄く、グループワークについていけないのではないかと不安でした。しかし、わからない用語などがあったとき、周囲の人が丁寧に教えてくれたことで、話し合いに参加できました。

私がこの3日間のセミナーを通して、医療に携わることの重要性と責任をあらためて実感しました。違う分野

## 情 報

を勉強していても、患者さんに対する気持ちはみんな一緒で、自分の立場からアプローチして他の分野の人と協力し、患者さんに向き合えば、より良い治療・よりよいリハビリが実現するのだということを感じました。充実した3日間を過ごすことができました。

### ② 歯科技工士学科1年「太田 周」

私は、医療に携わる他の職種の人達がどんな考えを持っているのか興味があり、このセミナーに参加しました。グループの構成は医師、社会福祉士、薬剤師、管理栄養士と歯科技工士を目指す7人でした。

グループワークでは、歯科関係の職種の人がいなかったため、話し合いには積極的に発言することを心掛け、とても真剣に取り組むことができました。

実習先の患者さんから、就寝中に人工呼吸器をつける時、義歯を装着していないと酸素が漏れることを直接伺いました。そのことから、義歯の役割と適合の重要性を理解することができました。

職種によって、患者さんをみる視点が違い、色々な意見が出てくるとは予想できませんでした。自分の目指す医療職の立場から人前で発言できる勇気がついた有意義なセミナーでした。

### ③ 歯科技工士学科1年「嵯峨 律」

それぞれの分野を目指す学生が集う中、歯科の分野、しかも「技工士」として何が役立つのか不安もありました。このセミナーには参加するだけでなく、自分も意見を述べて主張できるチャンスがあれば実践したいと思っていました。

グループの構成は医師、看護師、薬剤師、社会福祉士、歯科衛生士、歯科技工士でした。各自が、患者さんのカルテを元に症例の内容、術後の経過、ケアについて意見を出し合いました。また、お互いの事を理解するために、歯科技工士の視点にとらわれず、解らない用語があれば、インターネットを使って調べました。そして、グループワークや実習先では、初めて出会ったにもかかわらず、お互いが協調して意見をまとめることができました。

ケアの質を向上するために、複数領域の専門職を目指す学生が連携して、一つのテーマに沿って、お互いのことを学びながらケアの統合化、患者さんや利用者のニーズに答えてあげることでQOLを向上できると思いました。また、全身の疾患という視点で議論が進む中で、口腔内に着目したのは歯科技工士、歯科衛生士だけでした。

これからの将来、病院に行けない患者さんの為に、歯科技工士が専門的な知識を活かして、医療従事者として

活躍していけると実感できたセミナーでした。

### ④ 歯科衛生士学科専攻科

#### 口腔保健衛生学専攻1年「佐藤 直美」

昨年に引き続き、今年も参加させて頂きました。

昨年は、自分の職種について自分の中で遠慮する気持ちがあり、他職種に気後れしていた部分がありました。2日目でそのことに気づき、歯科衛生士として「患者さんの口腔内に対する責任感」が芽生えました。

今年は、自分の仕事に対してのプライドと責任感を持って挑もう！と張り切りましたが、その気持ちが強すぎてプライドが高くなりすぎ、連携が取りづらくなっている自分に気付くことが出来ました。今回参加させて頂いたことにより、連携を取る1職種として、どの程度意見を出すべきか、主張する配分とタイミングを学べたと思います。自らの職種に対するプライドと責任感には必要ではありますが、他職種が得意とする分野で自分も参与できる部分に関しては意見を出し合い積極的に連携し、自分の専門ではない部分は無理をせず、信頼して任せることがチーム医療です。また、疑問に思うことを質問することで、お互いに違う見方も出来、問題をさらに深く掘り下げる効果もありました。違う職種だからこそ、お互いを尊重しながら患者さんに真に求められる医療のあり方を多角的に見ることが出来るのだと思います。

今回の班としての反省点があるとすれば、私たちの班は、「連携」の意味が最後のぎりぎりになってわかったことで、時間が足りずに発表としてはあまりうまくはいかなかったことと、初めから、共通の「ゴール」を設定すべきだったのに最後までお互いの職種にしがみ付いてしまっただけで連携ができなかったことです。

今回の収穫は、連携とはどういうことなのか、身を持って体験したことで「連携の大切さと必要性」がそれぞれの視点から理解できたということ。共通認識、共通のゴールを設定して話し合うことで、方向性が見えてくるといふことにそれぞれが気付いたこと。また、気付いたことでそれぞれの職種の視点を生かしながら情報交換をし、みんなが同じだけの配分で意見を言い合うことができたこと。患者さんのナイーブなお気持ちに全員が寄り添うことで、患者さんが真に求めるゴール設定をし、他のグループに問題提起できたこと。2日目のお昼ごはんをみんなで一緒に食べたことで私たちが打ち解けて、お互いに信頼関係を築くことができたように、患者さんとも病気の話だけではなく様々な話をする中で本音を聞き出すことができたという事実全員が気付いたことです。初めのうち、患者さんを「疾患、症例」として見ていた

## 情 報

私たちが、実際に患者さんにお会いすることで人と人の心の通った交流が出来、みんなの心に医療従事者としての責任感や暖かな優しさが芽生えたのを感じられたのは大きな収穫だと思います。

連携セミナーは、自分の職種の特徴を他職種に理解してもらおう絶好の機会であり、かつ、知っているようで知らない他職種の専門性を知る良い機会です。学生のように、このようなセミナーに参加し気付きを得ることに大きな意義を感じます。素晴らしい機会を与えてくださった先生方や一緒に学んだ参加者の皆さんに感謝しております。

### 5. 終わりに

連携セミナーには、ファシリテーターとして参加した。昨年度に見学した際の様子から、他校の参加学生は3～5年生もしくは専攻科生であることを知り、歯科技工士学科からは、グループワークで十分な発言ができると判断した3名を選出した。

初日は、学生も「修学して日の浅い自分たちに何が出来るのか」と不安を抱いていたようであった。しかし、日程が進むにつれて、活発な発言や積極的に参加している態度もみられ、他校の学生間との連携が生まれている様子が伺えた。

医療従事者を目指す学生が一人の患者さんの情報を共有することで「自分の知識や技術は異なった視点がある」「だからこそ連携をする意義があるのだ」ということを学ぶことができた有意義な3日間のセミナーであったと思う。

歯科医療現場も、多くの医療・福祉職の協力の下に成り立っている。それぞれが、お互いの職種を理解し、患者さんの情報を共有し、それぞれの意見を述べる事で、始めてチームとしての連携が成り立っていく。そのためには、学生だけでなく、多くの教員も、自分だけの知識や経験に頼る閉ざされた教育ではなく、こういったセミナー参加を通して広く外の世界を経験して、自分の立ち位置を認識できるような客観的な視点を学んで欲しいと思う。その中で始めて、医療福祉の現場における、歯科医学教育のあり方を模索できるのではないかと考える。

## 2010年度附属歯科診療所報告

金子 潤<sup>1</sup>、中尾敦子<sup>2</sup>、生野美絵<sup>3</sup>、青木さつき<sup>4</sup>、飛田 滋<sup>5</sup>、

<sup>1</sup>診療所長、<sup>2</sup>歯科医師、<sup>3</sup>副歯科衛生士長、<sup>4</sup>ことばクリニック室長、<sup>5</sup>歯科技工室長

今年度の附属歯科診療所は、歯科衛生士学科実習生の臨床実習形態の改善を重点的に行った。新学年の臨床実習が開始される10月に合わせてスタートしたところであるが、今後問題点をスタッフ間で話し合い、解決しながら、学生にとってより有意義な臨床実習が行えるよう努力していきたい。

以下に2010年度の重点活動項目、臨床教育、スタッフ研修の状況を報告する。

### 1. 歯科衛生士学科臨床実習の活性化

前年度までの臨床実習は、附属歯科診療所での臨床実習期間中は継続的に同じ担当医や同じ業務見学につくよう決められていたが、実習生からは多くの歯科医師の治療法や症例を見学したいという希望が多かった。今年度10月から開始された新2年生の臨床実習では、学生が診療補助実習を積極的に行えるようにするため、日々の実習担当医を予め決められたものではなく、学生自らが事前に希望する症例や担当医を選択可能にし、実習回数ごとに単位を与えることによって実習到達度を明確にした。このことにより予習や日報に対するやる気、自ら積極的に症例を選択して実習に臨んでいるという自覚が生まれることを期待している。個々の学生の実習評価に関しては、同じ業務内容に対する同一スタッフによる継続的な評価が困難となるため、毎回担当になった歯科衛生士スタッフによる評価を総合したものとなる。明倫短期大学附属歯科診療所としての特色ある臨床実習指導ができるよう今後もスタッフ間で検討を続けていきたい。

### 2. コ・デンタルスタッフの臨床教育

本学各学科、各専攻科の多様な実習形態に対応して受け入れを行った。また外部実習生も積極的に受け入れた。

#### 1) 歯科衛生士学科臨床実習

##### (1) 実習生

- ・2010年度3年生66名(2009年10月～2010年9月)  
7班編成により1班計9週間のローテーション制
- ・2010年度2年生56名(2010年10月～)  
7班編成により1班計12週間のローテーション制